

玄海原子力発電所を視察 佐賀県と玄海町を表敬訪問

—第 27 回原子力発電所視察・行政表敬訪問—

KAKKIN は令和 5 年 6 月 14～15 日、九州電力(株)玄海原子力発電所を視察し、佐賀県と玄海町を表敬訪問しました。15 名が参加し、原子力発電所の現状と課題や立地自治体の原子力行政について話を聞くことができました。

1. 玄海原子力発電所



(写真：佐賀県HPより)

■ 発電所の概要

- ・ 現在稼働しているのは 3 号機と 4 号機。合わせて 236 万 kW の出力があり、九州電力の総発電量の 36% に相当する（1 号機と 2 号機は運転終了）。
- ・ 使用済み燃料の貯蔵余裕を確保するため、3 号機の使用済み燃料プールの貯蔵能力変更（リラッキング）工事を実施中。また 2027 年度運用開始を目指して、乾式貯蔵施設の設置準備を進めている。
- ・ 3、4 号機とも「特定重大事故等対処施設」は完成済み。これは故意による航空機の衝突などのテロに備えて設置が義務付けられているもので、中央制御室から離れた別の場所から原子炉を制御して原子炉の事故を防止するための施設である。
- ・ 発電所内では社員 586 人、協力会社の従業員約 2340 人が働いている（令和 5 年 5 月末現在）。

■ 発電所内視察

- ・ 福島第一原子力発電所では東日本大震災の発生後、原子炉は自動的に停止したものの、全ての交流電源を喪失したため、燃料の冷却ができなくなったことが事故につながった。このことから玄海原子力発電所では、電源供給手段の多様化、冷却手段の多様化、水素爆発防止対策、放射性物質拡散抑制対策などが講じられている。安全対策個所を中心に発電所内を視察した。

- ・電源供給手段の多様化として、ケーブルにより中央制御室から遠隔起動が可能な大容量空冷式発電機が準備され、またディーゼル発電機などを連続7日間運転できるよう燃料油貯蔵タンクが増設されている。
- ・冷却手段の多様化として、トラックと一体になった移動可能型のポンプが配備されている。
- ・重大事故が発生した場合の指揮所となる「緊急時対策所」を高台の強固な岩盤上に設置しているが、会議室や対策要員の休憩スペースの拡充など、支援機能を充実させた耐震構造の「緊急時対策棟」を建設中（2024年10月完成予定）。



中村玄海原子力発電所次長（右）

2. 佐賀県と玄海町

行政訪問では主に5点について意見交換をしました。

①行政としての原子力発電所の安全確保への関与

住民の安全が何よりも最優先という考えのもと、佐賀県も玄海町も九州電力と安全協定を結んでおり、これに基づいて協議会の開催、日常の連絡、立入調査を行っている。

②原子力発電所の安全性に不安を感じている住民への対応

佐賀県の南里副知事は「情報公開がすべてだ。そして県民の間で原子力の賛否は半々だろう。これを前提に行政を行っている」と語った。また玄海町ではケーブルテレビ放送を使って広報理解活動を行っている。

③避難計画と防災訓練について

玄海町では、避難計画において混乱を避けるため、避難路と避難先はひとつにしている。また防災訓練の際、1地区を選んで計画に沿って避難する訓練をしており、避難路・避難先の周知に努めている。

④原子力発電所が立地することによる地域への経済効果、雇用への影響

玄海町の原子力関連収入は歳入の半分強を占める重要な財源。

⑤再生可能エネルギーの導入状況

佐賀県では 30Kw 級の小水力発電事業に補助金を出して助成している。



佐賀県・南里副知事（右端）



玄海町防災安全課 古舘氏